悪

三年

画数 11
筆順 一 ⺾ 亜 亜 悪
オン アク・オ
クン わる＝い

成り立ち

土でねって作った〝できのわるい〟つぼの形をあらわした〝亜〟と〝心〟とを組み合わせて作った字です。

〝わるい心〟といういみの字ですが、今は〝心〟にかんけいなく〝わるい〟といういみにつかわれています。また、〝できのわるい〟→〝へた〟といういみにもつかわれます。例悪筆。

また、〝わるい〟ものはだれもにくみますので、〝にくむ〟といういみにもつかわれます。例憎悪。

使い方

▽幼稚園の子どもを、通りがかりに刺した人がいる、というのを、テレビで見ました。小さな子どもを傷つけるような悪い人は、いっこくも早くつかまえて、罰をうけるといいと思います。

▽ぼくは、いもうととけんかをして、泣かせてしまいました。悪いことをしたと思って、あとで、あやまって、ぼくの分のおやつをあげました。

熟語例

▽悪人（悪い人。「テレビで、時代劇を見ました。最初のうちは、悪人がわがもの顔でいばっていましたが、最後には、退治されました」などというふうに、つかいます。）

▽悪事（悪い事。「悪事をはたらいた者には、必ず、そのむくいがきます」などというふうに、つかいます。）

▽悪筆（字がへたなこと。「おかあさんは、『私は悪筆ではずかしい』といっています」などというふうに、つかいます。）

▽憎悪（憎むこと。「小さな者をいじめる人には、憎悪を感じる」などというふうに、つかいます。）

安

三年

画数 6
筆順 宀 宀 安 安
オン アン
クン やす＝い

成り立ち

〝家〟の形をあらわし、〝家〟といういみの〝宀〟と〝女〟の形をあらわし、〝女〟といういみの〝女〟とを組み合わせて作った字です。「家の中に、るすをまもる女の人がいて〝安心〟していられること」をあらわした字です。「心が〝安らか〟である」といういみの字です。

「心を〝安める〟」といういみにもつかわれます。例慰安、安息。

「安っぽい」といういみにもつかわれます。例安価。

また、「たやすい」といういみにもつかわれます。例安易。

使い方

▽赤ちゃんが、安らかな寝息をたてて、眠っています。

▽ぼくのおかあさんは、安くて良い物を買うのが上手です。このあいだも、ぼくのTシャツを五百円で買って来ました。

熟語例

▽慰安（慰め休めること。「町内の慰安旅行で、温泉に行った」などというふうに、つかいます。）

▽安息（安らかに休むこと。「息」は「休息」すること。「安息日」といえば、ユダヤ教やキリスト教で、仕事をせず、安らかに休む日のことです。）

▽安価（安い値段。また、そこから、安っぽく、軽々しい、という意味にもつかいます。「非常に安価な書棚を見つけた」「安価な同情は嫌いだ」などというふうに、つかいます。）

▽安易（たやすいこと。容易なこと。また、いいかげんなことの意味にもつかいます。「そんな安易な考え方では、将来が心配だ」などというふうに、つかいます。）